



プレスリリース 平成 23 年 9 月 27 日

日本化学連合主催 世界化学年記念  
化学コミュニケーション賞  
受賞者決定のお知らせ

2011 年は、国連において世界化学年と定め、各国で記念行事を進めています（注 1）。日本では、世界化学年日本委員会（委員長 野依良治 理化学研究所理事長）のもと、化学系各学協会・各種団体が記念行事を企画実行中です。

日本化学連合（会長：御園生 誠、注 2）では、上記委員会事務局を担当するとともに、独自の企画を進めています。化学コミュニケーション賞（主催：日本化学連合、共催：化学工業日報社、協賛：科学技術振興機構）の授賞はその一つで、2011 年 4 月 11 日（月）より 6 月 30 日（木）の間に募集を行い、28 件の応募がありました。本企画の趣旨は『わが国において、化学・化学技術に関する社会への啓発活動、情報発信を通じ、「化学」に対する社会の理解を含めることに貢献した業績』を表彰するものです。

この度、予備選考、本選考を経て下記 4 件の案件を表彰することになりました。なお表彰式は 10 月 28 日（金）午後 2 時より学術総合センター（千代田区一ツ橋）で開催いたします（注 3）。

#### 化学コミュニケーション賞入賞者

##### 化学コミュニケーション賞（個人）

受賞者：佐藤健太郎（東京大学大学院理学系研究科化学専攻）

業績の課題：『ウェブ・書籍などを通じた化学コミュニケーション活動』

選考理由：有機化学・創薬化学分野での独自性の高い出版並びに Web の活用を含めた、広範かつ精力的なコミュニケーション活動を高く評価する。どちらかという専門家向けに偏りがちな内容を、受賞者の化学コミュニケーションに対する強い熱意を持って、様々なツールを活用することで、中学生から専門家まで幅広い層への展開を図っていることも、評価に値する。

##### 化学コミュニケーション賞（団体）

受賞者：株式会社クラレ

業績の課題：『20 年に及ぶ「少年少女化学教室」の実践』

選考理由：企業の CSR 活動の一環として、地域社会との調和のとれた共生を目指して、およそ 20 年にわたって継続されている社員のボランティア参加による、小学生を対象とする地道な化学コミュニケーション活動を高く評価する。活動地域も開始当初の倉敷からその後数を増やし、現在では全国 5 事業所に拡張していることも評価に値する。

##### 審査員特別賞

受賞者：戸谷義明（愛知教育大学理科教育講座化学分野）

業績の課題：『化学の普及と大学授業とを両立させる出前化学実験』

選考理由：教育系大学教員の立場で、子供のみならず幅広い層への出前化学実験などの独自性の高い啓発活動の積極的な実践を評価する。ボランティアの学生と協働することで、コミ



ユニケータ一育成の視点も取り入れた活動である点も評価される。

審査員特別賞

受賞者：藤井豊・浅原雅浩・田中幸枝（福井大学 医学部／教育地域科学部／医学部）

業績の課題：『分子模型教材による化学コミュニケーションの推進』

選考理由：独自に開発した分子模型教材の活用を志向した、地域密着型の多彩なコミュニケーション活動。10年に及ぶ活動実績が有り、コンピュータ画像に頼りがちな現在において、自分の手で作る分子模型のもたらしりテラシー効果に期待するところは大きい。

<本件の問い合わせ先>

日本化学連合 事務局長 石田 裕

〒101-0062 千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 3F

電話: 03-3292-6010 FAX: 03-3292-6319

E-mail: [ishida@jucst.org](mailto:ishida@jucst.org)

(注1) 世界化学年は、キュリー夫人ノーベル化学賞受賞 100周年を記念して（なお、彼女にとっては2度目のノーベル賞）、国連、ユネスコ、国際純正応用化学連合が世界化学年と定め、統一テーマ“Chemistry-our life, our future”の下、以下の4つの目標を掲げて、世界各国が連動して化学に関する啓発・普及活動を行います。

1. 化学に対する社会の理解増進
2. 若い世代の化学への興味の喚起
3. 創造的未來への化学者の熱意ある貢献への支援
4. 女性の化学における活躍の場の支援

(注2) 日本化学連合は、化学関連学協会の連合組織で、メンバー会員の総計は約12万人（重複を除いて約8万人、2007年設立）。世界化学年を記念した日本化学連合の企画には、本化学コミュニケーション賞の他、カウントダウンシンポジウム（昨年12月実施）およびキュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール（本年8月3日表彰）があります。

(注3) 表彰式は学術総合センター（<http://pr.jst.go.jp/new/pdf/map-nii.pdf>）で開催される化学工業日報社主催の世界化学年「記念シンポジウム・講演会」（2011年10月27-28日）のプログラムの一環として開催されます。

10月28日（金）午後2時より